

年間第 16 主日 (マタイ 16:24-43)

刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい



イエス様は時々、面白いたとえ話をなさいます。そのなかでも最高傑作だと私が思うのは、ルカの 18 章「やもめと裁判官」のたとえです。なぜか。それは「特別あくどい裁判官」をイエス様がわざわざ登場させるからです。

「ある町に、神を畏れず人を人とも思わない裁判官がいた。」(ルカ 18・2) この悪代官のような裁判官が、やもめの願いに根負けして裁判を開いてあげるところから始まるのですが、イエス様ともあろう人が、悪代官をたとえに使うところが私は大好きです。「聖書の中で一番好きな箇所はどこですか」と聞かれたら、迷わずこの箇所を紹介します。

今週の朗読箇所は先週に引き続きマタイ 13 章ですが、今週の箇所も風変わりです。「ある人が良い種を畑に蒔いた。人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。」(13・24-25) これに気づいた僕(しもべ)たちが、「では、行って抜き集めておきましょうか」(13・28) と提案します。せっかくの提案に、主人は思いがけないことを僕(しもべ)に言いつけます。「刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。」(13・30)

皆さんのうち、どれくらいが、僕(しもべ)の提案に賛成でしょうか。あるいは主人の言いつけに賛成でしょうか。私は、ほとんどの人が、僕(しもべ)の提案に賛成だろうと思います。毒麦が、通常の麦と一緒に育っていくさまを、とてもではないですが受け入れられないのではないのでしょうか。

ただ、「麦」でなかった場合は、皆さんの賛成の数は少し変わってくるかもしれません。こう考えてみましょう。主人にお子さんが二人いるとします。一人は素直で従順な子です。一人は手のつけようがないほどの悪童です。二人のお子さんを面倒見る家政婦がいるとして、家政婦がご主人に「一人は間違ったふりをして二階から突き落としましょうか」と提案したとします。

あなたは家政婦にどんな指示を与えるでしょうか。「そうしなさい」と言って、家政婦に賛成しますか。それとも「両方とも育つままにしておきなさい」と指示を与えるでしょうか。どちらに賛成しますか？これは間違いなく、主人の指示に賛成するでしょう。

つまり、「両方とも私たち人間のことをたどっている」ということです。私たちはそれぞれ、十人十色で育っていきます。なかには極端な道を進み、育っていく人もいるでしょう。主人である神は、最後まで、本当に最後まで育つに任せ、その人が取り置きしておくべき人か、取り除くべき人かを見極めるのです。誰かの提案に委ねることなく、最後までご自身が見極め、審判を下すのです。

ここでもう一つ。想像をふくらませる人物がいますね。「『まず毒

麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい』と、刈り取る者に言いつけよう。」（13・30）ここで登場する「刈り取る者」は誰のことでしょうか。主人が全面的に信頼を寄せる人とは誰のことでしょうか。

ここに「誰のことだ」と書かれているわけではありませんから、あくまでも私の感想ですが、この「刈り取る者」は御子イエス・キリストのことではないでしょうか。主人になぞらえられている父である神が、そのすべての作業を任せることのできる方、主人が立ち会わずとも、主人の意向を完全に実行できる方は、イエス・キリストお一人ではないでしょうか。

さらに踏み込んで考えましょう。御父からの意向を完全に履行できる御子イエス・キリストは、育つままにしておかれた結果「毒麦」と成り果てた一本一本を、「1」か「0」として選別し、束にして焼き払うのでしょうか。

イエスは御父の意向を完全に履行できるお方ですから、焼き払おうと思えばそれは造作なくできるでしょう。ただ、中田神父はそうは思わないのですね。私の考えはもちろん間違っているかもしれませんが、間違っているかもですが、それではなぜ、イエスは十字架に架けられて亡くなったのでしょうか。

イエスは「毒麦」のために死ぬ必要はどこにもありませんが、それなのにイエスは、全人類のために十字架の上で亡くなられたのですよね。全人類、両方とも育つままにしておきなさいと命じて、結果悪人となった人も全人類の一人でしょう。その悪人のためにも死なれた方は、最終的にご自分の命を代価として、一人もこぼさずに拾い集めてくださるのではないかと。そんな気がします。

「毒麦」と判定されてもしかたのない人とは誰でしょうか。長崎教区のために信徒が汗水流して献金した教区費を一瞬で溶かしてしまった人でしょうか。そうかもしれませんが、その人だけではないかもしれません。私も含まれているかもしれません。

イエスがご自分の命を代価として「毒麦」まで「麦」の倉にこっそり戻してくれたとしたら、しかもその中に私が含まれていたとしたら、それは非難されるべきことでしょうか。神の深いいつくしみをたたえるべきでしょうか。

年間第 17 主日(マタイ 13:44-52)